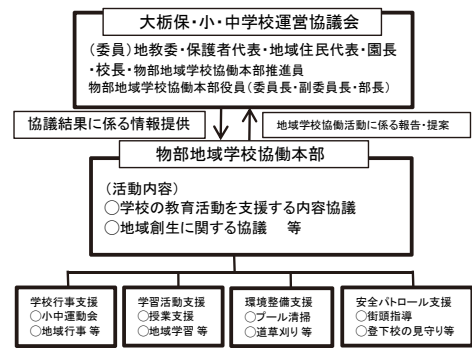


よってたかって育てる「物部の教育」 —保小中—貫教育と地域との協働—

高知県香美市	● 活動名	● 関係する学校名
	物部地域学校協働本部	香美市立大栃中学校、香美市立大栃小学校、香美市立大栃保育園

開始年度	平成 25 年度	学級数	3 学級	児童・生徒数	24 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 120 人	属性	PTA役員 地域住民等		
参考 URL	http://www.kochinet.ed.jp/odochi-j/				

● 体制図



● 連絡先 香美市立大栃中学校 ☎ 0887-58-2402

- 活動の概要・経緯
- 平成 25 年「より広く学校を支援する」ことを活動の柱に据えた「大栃小中学校支援地域本部」を 23 名の委員でスタート。
 - 平成 27 年、地域や保護者及び小中教職員で「中学校卒業までの 15 年間を見通した物部がめざす子どもの姿」を確立。
 - 平成 28 年、「物部がめざす子どもの姿」実現のために「保・小・中」と縦に学びをつなぎ、「地域との協働」において横に学びを広げる活動とするため、「大栃保小中学校支援地域本部」を 49 名の委員に拡大し、4 つの部会も設置した。
 - 平成 29 年「多様で継続的な活動」をめざし、学校の支援のみならず、地域創生を活動に加えた「物部地域学校協働本部」を設立。55 名の委員が活動を展開している。
- また、「大栃保・小・中学校運営協議会」を設置し、物部コミュニティ・スクールをスタート。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 物部がめざす子供の姿を、「郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情・学力向上」と明確に位置づけ、その実現のために、「保小中—貫教育」及び「地域との協働」活動を展開している。
- 物部地域学校協働本部を 4 つの部会（学校行事支援・学習活動支援・環境整備支援・安全パトロール支援）に分けて、それぞれが「計画・実施・振り返り」を行い、多様で継続的な活動を展開している。
- 「大栃保・小・中学校運営協議会」と連携し、一体的な取組を行っている。「大栃保・小・中学校運営協議会」での承認内容が、「物部地域学校協働本部」の活動に反映され、学校支援のみならず「地域と活性化するための」ネットワーク活動が展開されている。

【実施にあたっての工夫】

- 各部会が計画的に会合を開き、計画→実施→振り返り→次計画につないでいる。PDCA サイクルが全体及び各部でも確立されることで「多様な活動」「継続的な活動」に繋がっている。
- 地域の行事である「湖水祭り」や「生きがい教室」における保小中の子供たちの参画が大きくなっている。また子供たちが地域を活性化させようと物部の魅力をまとめた「ガイドブック」の作成や発表会の開催、また商店街に元気を取り戻すための「物部っ子祭り」の実施など、子供たちも地域も元気になる取組につながっている。
- 「熟議」「地域との協働」を活動の中心に据えている。その結果、学校への支援から始まった活動が地域創生に繋がる活動に進化している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子供の「自分の住んでいる地域が好きだ」と、「自分には良いところがある」といった「郷土愛」「自尊感情」に関する項目のポイントが大きく高まった。地域の方々に多く関わってもらうことで、安心した学びができ、子供たちは地域に誇りを感じ、自分に誇りを持ち自信を深めている。
- 学校だけで行っていた防災学習やプール清掃を、物部地域協働本部との協働で行うことで、環境整備がより整った。また教職員の業務改善にも繋がりがつある。

● その他

- 毎年、生徒が「物部の魅力」を伝える発表会を行っており、収集したデータや資料を整理するため ICT を活用した取組を推進している。
- 学習支援では、「個に応じた指導」を充実させ、その取組が家庭学習の質と量の向上に繋がっている。



「湖水祭り」パレード



「物部っ子祭り」

ポイント

目指す子供像を明確にし、その実現のための取組を展開しています。活動を PDCA サイクルの視点でみることで、次につながる活動になっており、素晴らしいですね。